



# 秋津東小だより

令和3年度 7月号  
令和3年6月30日  
東村山市立秋津東小学校  
〒189-0001 東村山市秋津町4-35-11  
TEL.042-391-8191 FAX.042-397-5411  
URL <http://higashimurayama.ed.jp/e12-akitsuhighashi/>

## 気が付く・気になる…そしてどうする？

校長 織茂 直樹

コロナ感染症の3度目の緊急事態宣言は、沖縄県を除いて6月20日に解除されたものの、東京を含めた10都道府県は、引き続き7月11日まで「まん延防止等重点措置」の対象地域となりました。期待されているワクチン接種はだいぶ進んできましたが、オリンピック開幕が目前となった切迫感や、あちこちで見られる自粛体制のほころびなど、不安の種はなかなか消えません。それでも学校では、先日配布したお知らせのとおり、水泳や校外学習、異学年交流などを再開しました。今まで同様、感染症対策を十分講じることが大前提ですが、様々な教育活動をできるだけ再開していく方向で、学校は動いています。ご家庭でも引き続き、感染症対策へのご配慮ご協力をよろしくお願い致します。

さて、とある回転寿司店での出来事です。レーンを回ってきたお皿には、サービス中かなり増量されたお寿司が載っていました。でも手際が悪かったのか、盛り付けた具材が崩れてしまっています。それに気がついた親が言うには、「これでは誰もお皿を取らない。注文品でもないようだから、ずっとレーンを回り続けて、そのうち処分されるだろう。もったいないから店員を呼んで、お皿を下げて（盛付を直して）もらおう」。その言葉を聞いた子の反応は、「忙しいのにこんなことでわざわざ呼ばれては店員も迷惑なのでは。レーンの皿は、決められた時間で自動的に外される仕組みになっているし、流される品目や数量も、データを基に無駄が最小になるよう管理されているから、余計なことをする必要はない」。それに対して親は、「目の前に盛付が崩れた皿があるのに、そういう無関心で他人事のような態度はダメでしょう」。そう言って店員呼び出しボタンを押しました。店は混雑していて、忙しそうなお店員がテーブルに来たのはしばらく経ってから。用件を聞くと

「気が付かず申し訳ありません、すぐに片付けます」と言って調理場へ。それから親子はちょっとだけロゲンカ。さて、この親子はどちらが悪かったといえるのでしょうか。

次は、とある観光バスの中の出来事です。感染症対策ということで、乗客はみな窓を開けていたのですが、一人の乗客はほぼ全開状態。窓の真横ならば顔でも出さない限り、本人に風はほとんど当たらないのですが、そこから後ろの席の人には、強烈な風が容赦なく当たります。4月でしたが高速道路ということもあり、風の直撃を受け続けた人たちの体はかなり冷えてしまったようです。その後も小1時間、休憩で停車するまでその状態は続きました。その間、窓全開の本人は後ろの席の人たちの様子に全く気づかず、後ろの席の人たちも、誰も「窓を閉めて」とは言いませんでした。最後は、真後ろの席の人が休憩中に同乗していた知人に相談したらしく、その知人が一緒に窓全開の人の真後ろに座って、「少し窓を閉めて」とお願いしていました。この件でも、窓全開の人と後ろの席の人のどちらか一方だけが、明らかに悪かったといえるのでしょうか。

何に気が付き、何を気にするかは、人によってかなり感度の差があり、それを一面的によい・悪いで判断することは、なかなか難しいことです。では、そんな場面でどう判断し、どう行動すればいいのか。自分の思いや考えだけでは答えは出せないし、状況にもよるので決まった正解もありません。そこで判断の拠り所になるのが、人と関わった経験値・経験知や「相手意識」だと思います。これを子供に育てることが学校です。コロナ禍の中で改めて認識されたのが、この子供が集う場・関わり合う場としての学校の重要な役割です。教科の学習はもちろん大事ですが、この役割も大事にしていきたいです。